

開講期	2026年度前期		単位数	2.0単位
科目[授業]名	3510 保育内容(ことば) [1]		開講形態 (隔週 偶数 = 隔週2コマ)	週間授業
種別	なし		定員	
履修可能学年	3年/4年	重複履修	×	全学開講
曜日時限	水曜3限			
教室	H301教室			
代表教員	山口 理沙			
担当教員	山口 理沙			
テーマと到達目標	保育現場において保育者が子どものことばの育ちに対して援助する事柄について考えていく。実際に絵本や紙芝居等の児童文化財の製作、実演を通して、子どもがふれることばについて考え、技術を身につける。			
概要	子どもが豊かなことばや表現、想像する楽しさを広げるために必要な技術を身につける。具体的には、保育者として求められる「ことばのもつ意義と機能」や「ことばに対する感覚を豊かにする実践」、「ことばを育て想像する楽しさを広げる児童文化財」について領域「言葉」の指導の基盤となる実践から学ぶ。			
対面科目/オンライン科目	対面科目			
授業計画			担当教員(複数の教員が担当する場合のみ記載)	授業方式
第1回	オリエンテーション：授業概要と評価基準、授業において求められること			対面授業
第2回	領域「言葉」とは			対面授業
第3回	話し言葉の機能と発達			対面授業
第4回	書き言葉の発達と保育			対面授業
第5回	ことばの発達と児童文化財			対面授業
第6回	児童文化財の製作：構造の理解			対面授業
第7回	児童文化財の製作：ストーリーテリング			対面授業
第8回	児童文化財の製作：ねらい・内容			対面授業
第9回	児童文化財の製作：導入・展開・まとめ			対面授業
第10回	児童文化財の実演と評価：ピアチェック			対面授業
第11回	児童文化財の実演と評価：発表			対面授業
第12回	ことばに関して配慮を必要とする子どもへの支援			対面授業
第13回	前言語期のコミュニケーションと保育			対面授業
第14回	現代社会とことば			対面授業
第15回	まとめ：ことばの援助			対面授業
成績評価の基準	毎授業の課題及び授業への取り組み状況60%、学期末レポート40%			
履修にあたっての留意事項	様々な児童文化財を扱う予定であり、学生自らも製作し、発表を課す予定である。			
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細				
【種別】人数制限(抽選)授業の優先条件				

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	実践編の授業においては、児童文化財の製作を求める。裁縫道具、文具や廃材（牛乳パック）等の準備が必要となる。		
教科書	特に指定せず。適宜、関連資料を提示する。	教科書(ISBN)	
参考文献	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 最新版 『保育所保育指針解説』厚生労働省 最新版 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 最新版	参考文献(ISBN)	特に指定せず。適宜関連資料を提示する。

◆合理的配慮

本学における修学支援基本方針について	本学における修学支援基本方針は以下URLを確認してください https://www.wako.ac.jp/campuslife/barrier-free.html 合理的配慮を希望する場合は基本方針およびシラバスを熟読の上で申請すること
--------------------	--